



スプレーギクの新品種「スプレー愛知夏2号」と「アイセイカーラ」を開発

開発の背景・ニーズ

近年、スプレーギク産地では夏季の高温による開花の遅れや、葉焼けなどの障害の発生のほか、矮化病の発生が問題となっており、新たな品種の開発が望まれていました。そこで、高温、矮化病に強いスプレーギクの品種開発に取り組みました。

開発した品種の特徴

○「スプレー愛知夏2号」

7月から9月まで収穫可能な夏秋系品種で、高温期でも花びらは美しいピンク色を保ちます。また、開花の遅れが少なく、安定して出荷できます。

○「アイセイカーラ」

10月から6月まで収穫可能な秋系品種で、美しいピンク色の花の姿に加え、キク矮化病に極めて強く、本病の感染、発病を心配することなく栽培ができます。

2品種は2020年6月に種苗法に基づく品種登録出願を行い、9月に出願公表されました。



スプレー愛知夏2号



アイセイカーラ

愛知県農業への貢献

ピンク系スプレーギクは「スプレー愛知夏2号」と「アイセイカーラ」を組み合わせることで安定した周年出荷が可能となり、産地のブランド力向上に寄与します。

2021年度から本格的な生産を開始し、2025年度に「スプレー愛知夏2号」は50万本、「アイセイカーラ」は100万本の出荷を目標としています。

【「アイセイカーラ」はイノチオ精興園（株）との共同研究で開発しました。】